

1年次で「水素エネルギー実験教室」を実施。

◆本号の記事は、1年次主任・理科担当の大村先生が書いてくれました。

11月22日（火）、本校の1年次生対象にHONDA×リバネスによる「次世代水素教育プロジェクト 実験教室」が行われました。HONDAの技術者2名、広報担当の方1名、リバネスから4名が来校され、総合実践室と化学室でクラスごとに2時間連続授業を行っていただきました。

化石燃料の課題や水素をつくる技術、**水素燃料電池車の技術**などの講義があり、私たちの生活は化石燃料からつくられる電気に依存していること、水素技術には3つの要素があること、燃料電池の原理を知ることができました。

爆鳴気※の実験から水素エネルギーの大きさを体感し、**水素発生装置**を用いて水素と酸素の発生の仕組みを見ました。各班で**燃料電池**の構造を観察し、その燃料電池にシリンジを使って、水素を注入して、燃料電池車を走らせました。たった7mLの水素だけで、車が速く遠くまで走っていく様子を見て、生徒たちはたいへん驚き、燃料電池の性能に感心していました。他にも、電子オルゴールを鳴らしたり、LEDを光らせたりしました。みんな積極的に講義を聴いたり、実験に楽しんで参加したりと、まさに「**アクティブラーナー**」でした。最後に、**今学んでいる理科**が技術に結びつき、技術が社会につながっていることや、**コストダウン**するためにどのような工夫をしてきたのかなど研究開発の面白さなどのお話がありました。

1年次生（中学1年）にとって、理科だけではなく、技術開発などの**仕事の面白さ**も感じる事ができた授業でした。



※爆鳴気（ばくめいき）……水素2容積と酸素1容積との混合気体。点火すると爆音を発して反応し、大量の熱を発生する。